移動式泡消火設備　YPP-160ＵＳ（ラバーバッグ式）取扱説明書

ヤマトプロテック株式会社　20111121

1.仕様

混合方式	プレッシャー・プロポーショナー隔膜方式
泡消火薬剤	水成膜泡消火薬剤、たんぱく泡消火薬剤及び合成界面泡消火薬剤　３％型
薬剤量	160L
泡ノズル	YFN-350R　／　吐出圧力　0.34～0.69MPa　／　吐出流量　350L/min(at　0.34MPa)
消防ホース	町野式 65A×20m　２本
圧力損失	0.05MPa(at　350L/min)
最高使用圧力	0.96MPa

2.使用方法

①　すべての弁が閉じられていることを確認する。
②　ノズルを取り出し、ホースを延長する。（ノズルは保持しておく）
③　消火ポンプを起動する。
④　元弁、給水弁、原液弁の順に全開する。
⑤　ノズル先を火災の方向に向けて放射する。
　注）泡ノズルの放射圧力は、0.34～0.69MPa になるようにして下さい。

3.泡消火薬剤の充填方法

すべての弁が閉じられていることを確認する。

①　エアー抜き弁２ヶ（タンク本体上部、原液側，給水側各１ヶ）を開く。

注意	・エアー抜き弁が閉じた状態で泡消火薬剤を充填すると、エアーが抜けず、ラバーバッグが破損する恐れがあります。

②　充填排液弁（タンク本体下部）より、消火薬剤 160L をゆっくりと又は手動ポンプで充填する。
　注 1）所定量の充填途中でエアー抜き弁（原液側）より消火薬剤が噴出した時は、作業を中断し充填排液弁を閉じ、ポンプ加圧によって給水弁操作を行い、エアー抜き弁（給水側）から水が出るまでゆっくり給水する。ポンプを停止し、給水弁を閉にして充填作業を再開する。(外側から水でラバーバッグを浮かせて、内容積の拡張をはかるため。)
　注２）エアー抜き弁（給水側）から水が出ている状態でも、そのまま泡消火薬剤の充填を続けて問題はありません。エアー抜き弁（原液側）から発泡した泡消火薬剤がでてきたら充填スピードをゆるめて下さい。

注意	・充填の際は電動ポンプでの急速な充填はおやめください。ラバーバッグの破損及び規定量の充填が得られずに障害が発生する恐れがあります。

③規定量の泡消火薬剤の充填が終了したら、充填排液弁を閉じる。
④ポンプ加圧によって給水弁操作を行い、エアー抜き弁（給水側）から水が出るまでゆっくり給水し、原液槽内を水で充水する。(原液槽内のエアーを完全に抜く為)
⑤原液側と給水側のエアー抜き弁より泡消火薬剤又は水が出た時点で、それぞれのエアー抜き弁及び給水弁を閉じて下さい。(すべての弁が閉。)

注意	・泡消火薬剤が原液槽にかかると、塗装が変色あるいは剥離する場合があります。かからないように注意して下さい。万一泡消火薬剤がかかった場合はすぐに水洗いして下さい。 ・原液側と給水側のエアー抜き作業後、各エアー抜き弁及び給水弁を閉じた場合に、タンク内部がポンプ閉塞圧力状態まで昇圧している可能性があります。その状態のままで放置すると、温度上昇等による昇圧により、原液タンク内部が異常圧力となり、フランジ部、及び配管・継手部のシール性を保つことができなくなる恐れがあります。また、ラバーバッグが破損する恐れがありますので、エアー抜き弁（給水側）から排圧を行なってください。

⑥ポンプを停止する。この状態でセット完了です。

4.監視時の注意点

注意	・監視時、タンク内部に圧力が保持された状態の場合、温度上昇等による昇圧により、原液タンク内部が異常圧力となり、フランジ部、及び配管・継手部のシール性を保つことができなくなる恐れがあります。また、ラバーバッグが破損する恐れがありますので、タンク内部の圧力が最高使用圧力以上とならないように十分お気を付けください。

5.使用（泡放射）後の手順

注意	・使用後もタンク内に圧力が残っている場合があり危険です。バルブを開ける場合は十分お気を付けください。

①　原液弁、給水弁、元弁の順に全閉する。
②　消火ポンプを止める。
③　エアー抜き弁２ヶ所及び排水弁を開けて残水を排出し、3.「泡消火薬剤の充填方法」の手順に従って行って下さい。